

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】

2019年3月7日配信（No. 65号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

○「平成30年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました
(近畿運輸局)

○ 高齢運転者の事故防止と高齢者に優しい公共交通の実現に向けて
(北海道運輸局北見運輸支局)

○「地域公共交通活性化セミナー2019 in 福岡」を開催しました
(九州運輸局)

○ カモンベイビー公共交通♪さっぽろ雪まつりにのりたろうの雪像が登場しました
(北海道運輸局)

○「平成31年度地域公共交通確保維持改善事業等支援制度近畿ブロック説明会」を開催します!
(近畿運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

「平成30年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました

(近畿運輸局)

2月1日(金)に、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)において「平成30年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました。

本シンポジウムは、地域公共交通を取り巻く環境が厳しさを増す中、きめ細かく地域の足を考える「ズームイン」、移動の実状に即した生活圏単位での交通を確保する「ズームアウト」の2つの視点の重要性とその実現のための関係者の協働について理解を深めることを目的とするもので、地方自治体・交通事業者など180名を超える方々に参加いただきました。



開会挨拶
近畿運輸局長 八木 一夫

○基調講演

「まちをつくり、育てる公共交通の実現に向けて～鳥の目と蟻の目～」

愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授 松村 暢彦氏

「交通はまちづくり たりえるのか」まちづくりと交通の連携を促す制度は整えられていますが、まちづくりに資する効果的なネットワークを構築するためには「役割分担だけでなく関係者みんなが共有する」、「現場で考える、粘り強く頑張る」、「関係者が役割を認識し、具体的に行動する公共交通が残っていく」など、モビリティ・マネジメントによって住民行動が変化した吹田市や川西市での具体的事例も交えつつ、関係者が地域公共交通の原点に立ち返り、各々の行動によって交通とまちづくりが結びつくことに気づかされるご講演でした。



愛媛大学 松村教授

○事例紹介①

「NPO法人にこここ日土・八幡浜市の公共交通空白地における移動手段確保に関する取組について」

八幡浜市 企画財政部 政策推進課 総合政策係 主任 石河 陽介氏

過疎化の進む愛媛県八幡浜市日土地区では、路線バス廃止の危機に住民が立ち上がり、クロスセクター効果もふまえ、八幡浜市の全面支援のもと、通学も含めたトータルの足の確保と、費用対効果の高い活動を続けてきました。

農繁期のため当日参加できなかったNPO法人の方々の思いも披露いただきながら、多様な主体の参画や住民の創意工夫、自立性・継続性など、詳しくご説明いただきました。



八幡浜市 石河主任

○事例紹介②

「鳥取県西部地域におけるバス路線の再編について」

鳥取県 地域振興部 交通政策課 課長 矢吹 隆氏

南部町 企画政策課 課長補佐 岩田 政幸氏

日本交通(株) 常務取締役 澤 耕司氏

平成30年10月に策定された「鳥取県西部地域公共交通再編実施計画」について、「チーム鳥取」として、県・市町村・事業者それぞれの立場からご講演いただきました。

鳥取県の矢吹課長からは、県を東部・中部・西部の3生活圏単位で計画を取り進めてきた経緯と、その中で市街地の変化や将来の持続可能性をふまえ地域公共交通再編実施計画を策定した経緯をお話いただきました。



鳥取県 矢吹課長



南部町 岩田課長補佐

事業者との共通定期等、一つ一つ課題を乗り越えて実施に至った過程を、バス事業者ならではの視点から熱弁いただきました。

南部町の岩田課長補佐からは、同計画に位置づけられた、幹線の路線バスと支線のデマンド交通の役割分担の実施について、地域住民との粘り強い話し合い、再編後の効果や課題など、市町村ならではの具体的な現場目線のお話をいただき、最後は「みんなで作りあげた公共交通はよい！」と締めくくって頂きました。

日本交通株の澤常務からは、地元バス事業者として、米子市街地における市街地循環路線の導入や既存路線の再編、結節点の整備、さらには実施に当たり、乗務員不足のなか作業数を増やさない運行計画、競合



日本交通株 澤常務

○パネルディスカッション

【パネリスト】

八幡浜市 企画財政部 政策推進課 総合政策係 主任 石河 陽介氏

鳥取県 地域振興部 交通政策課 課長 矢吹 隆氏

南部町 企画政策課 課長補佐 岩田 政幸氏

日本交通株 常務取締役 澤 耕司氏

近畿運輸局 交通政策部長 八木 貴弘

【コーディネーター】

愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授 松村 暢彦氏

パネルディスカッションでは、各パネラーから講演で語り尽くせなかった取組のポイントや、相互の役割、さらには今後の課題まで、八木交通政策部長も交えて、様々な視点から話題が飛び出し、活発な意見交換が行われました。



近畿運輸局では、日々、地域公共交通の活性化に頑張る自治体・事業者・住民の皆さまの取組の参考にして頂くため、今後も学識経験者の方の講演や、幅広く全国の先進事例を紹介する場を設けてまいりますので、多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

※シンポジウムの詳細については、近畿運輸局ホームページに掲載しております。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/symposium2018.html>

高齢運転者の事故防止と高齢者に優しい公共交通の実現に向けて

(北海道運輸局北見運輸支局)

近年、高齢者による交通事故の増加が社会問題となっており、自家用車から公共交通機関への移動手段の転換を図るなどの移動手段のマネジメントが求められており、高齢者が自家用車に依存することなく、運転免許証を返納しても安心して移動できるような環境の整備など、社会全体で高齢者の生活を支えていく必要があります。

そこで北海道運輸局北見運輸支局では、路線バスの利用促進と高齢運転者の事故防止を図ることを目的に、北見市内の老人クラブに加入している高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントの取り組みを2月5日（火）に実施しました。

当日は、北見市内の老人クラブに加入している高齢者31名が参加して路線バスなど公共交通に慣れ親しみ、今後より多くの方に利用していただくために、バスの乗り方教室や北見藤女子高校生とのグループミーティングを通して、一人一人のモビリティ（移動）を再確認することで、過度な自家用車利用の抑制と自発的な路線バスの利用を促しました。

【プログラム内容】

・かしこい公共交通機関の使い方講座（座学）

バスと自家用車で移動を比較した際の健康のお話や、高齢ドライバーによる交通事故の現状など、バスと自家用車を組み合わせて効率的に生活を送るためのちょっとお得な秘策を伝授。

・路線バスの乗り方教室

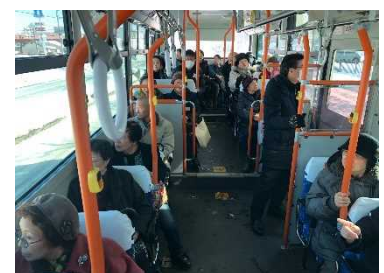
路線や発車時刻の調べ方、ICカードの使い方、乗降車時の注意点などについてバス車両を使い、乗車体験。

・グループミーティング

老人クラブ参加者と北見藤女子高校生とが昼食をとりながら、路線バスの利用可能性、乗継発生時の利用意向や負担軽減のために求めるサービスなどについてグループミーティング。

・モビリティ宣言

全体のまとめとして、外出時の交通手段選択等に関する宣言書を記入して宣言発表。



「地域公共交通活性化セミナー2019 in 福岡」を開催しました

(九州運輸局)

九州運輸局では、2月19日（火）に福岡合同庁舎本館（福岡市博多区）にて、行政・交通関係事業者を対象とした地域公共交通活性化セミナーを開催しました（今回が10回目）。

今回のセミナーには、89名の参加があり、国の補助金制度の説明、基調講演及び全員参加型の班別討議等を行いました。補助金制度の説明では、九州運輸局より交通・観光関連の事業について、九州地方整備局より都市整備関連の事業についてそれぞれ補助の概要を説明しました。

基調講演では、福岡大学辰巳教授より「わが国におけるコミュニティバスおよびデマンド交通の運営実態について」と題しご講演を頂きました。講演では全国の自治体を対象としたアンケート調査の結果を基に、現状の地域公共交通の運営状況を詳しくお話しいただきました。地域公共交通を担当する自治体職員だけでなく、実際に運行を担っている事業者にとっても業務の参考となるような貴重な内容でした。



基調講演の様子



班別討議の様子

また、公共交通の利用促進やPDCAサイクルを活用した事業評価にどのように取り組めば良いのかといったヒントとなるよう、班別に他の地域の事業評価を素材として討論を行いました。討論の後には、これまで参加者の皆様から頂いたアンケートに基づき、取組み事例や課題についても意見交換の時間を設け、結びには福岡大学辰巳教授、東海大学梶田教授、大分大学大井准教授からそれぞれ講評をいただきました。全体を通して自治体・事業者・コンサルタントなど、立場が異なる主体による活発な意見交換により、公共交通活性化に向けた課題、成功例、アイデアの共有、交通担当者の人脈形成が図られました。参加者からは「とても参考になった」、「さまざまな地域の取組等を学びたい」などの感想があり、地域公共交通に対する知見を広める一歩を踏み出すきっかけになったのではないかと思います。

今回は地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu (Q サポネット) に後援をいただいたほか、九州地方整備局など様々な方と連携して開催することにより、参加者に幅広く情報発信ができたのではないかと思います。

九州運輸局は今後も九州全体の地域公共交通への意識・取組みの底上げを図るべく、様々な取組を続けて参ります。

カモンベイビー公共交通♪さっぽろ雪まつりにのりたろうの雪像が登場しました
(北海道運輸局)

2月4日(月)～2月11日(月)に開催された第70回さっぽろ雪まつりの市民雪像の制作に応募したところ、高倍率の抽選をくぐり抜け、昨年に続き2回目の当選となりました。1月29日から、北海道運輸局のりたろう雪像プロジェクトチームが公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」の雪像制作に挑みました。

制作初日はのりたろうを招き、鍬入れ式ならぬ「ケレン棒(※)式」を執り行い、作業スタートです。

(※ケレン棒とは…もんじゃ焼きのへらを大きくしたような形状のもの。雪の塊を削って雪像を形成するのに使用。)

昨年の初参加のときよりもグレードアップしたのりたろう雪像にするべく、PDCAサイクルを回した結果、斜に構えたのりたろうがカモンベイビーのポーズをとった雪像デザインに決定し、シャープ&可愛いのりたろうをコンセプトに制作しました。残念ながら、人気投票では入賞できませんでしたが、より愛くるしいのりたろうを表現できたのではと思っております。



開幕日に雨が降り雪像の状態が気になりましたが、のりたろう雪像は最後まで壊れることなく無事に最終日を迎えることができました。開催期間中、多くの方がのりたろう雪像に会いに来てくださいました。のりたろうをきっかけに公共交通の利用促進に関心を持って頂ければ幸いです。

来年のさっぽろ雪まつりへの来場も「公共交通にのろう！」



平成31年度地域公共交通確保維持改善事業等支援制度近畿ブロック説明会を開催します！
(近畿運輸局)

近畿運輸局では、3月15日(金)、大阪歴史博物館において、「平成31年度地域公共交通確保維持改善事業等支援制度近畿ブロック説明会」を開催します。

当日は、国土交通省総合政策局公共交通政策部交通支援課からの制度説明のほか、近畿地方の交通事業者からの事例紹介も予定しております。

年度末の慌ただしい時期ではありますが、自治体、交通事業者をはじめ、地域公共交通に携わる皆さま方、どうぞふるってご参加ください！

●開催概要

1. 日時 2019年3月15日(金) 13:30 - 16:30 (13:00 受付開始)
2. 会場 大阪歴史博物館4階講堂(大阪府中央区大手前4丁目1-32)
3. アクセス 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」2号もしくは9号出口
大阪シティバス62系統「馬場町」バス停前
4. 定員 先着200名様(申込み順)
5. プログラム
 - ・開会挨拶(近畿運輸局交通政策部交通企画課)
 - ・制度説明「平成31年度地域公共交通関係予算等について」
(国土交通省総合政策局公共交通政策部交通支援課)
 - ・事例紹介①「地方バスの取組みについて」(全但バス株式会社)
 - ・事例紹介②「訪日客受入・沿線価値向上の取組みについて」(南海電気鉄道株式会社)
6. 参加費
無料
7. 申込方法
参加申込書に参加される方の企業・団体名、所属・役職、お名前と、申込者の方の連絡先を記載の上、FAXもしくはメールにて、お申し込みください。
FAX 06-6949-6169
メール kkt-kinki-kikakuka@mlit.go.jp
※お預かりした個人情報、「当説明会」の事務運営のみに利用いたします。
8. 申込締切
平成31年3月7日(木)
※以降の申し込みにつきましてはお問い合わせください。
9. お問い合わせ
近畿運輸局 交通政策部 交通企画課(担当:奥井(おくい)、清瀬(きよせ))
TEL: 06-6949-6409 FAX: 06-6949-6169

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport.tk_000039.html



